

集中・持続することがむずかしく、能力の定着しにくいK子の指導について —— 教材・教具、指示・援助に関する試み ——

森 本 真由美

1 テーマ設定の理由

K子は、周りの刺激に影響されやすく、ひとつのことに集中できず、絵をかいたり、色をぬる遊びも長続きせず、雑になったり中途半端に終わったりするという、集中力・持続力の弱さが指摘される。集中力・持続力に欠けることは、学習してきたことが十分身につかず成果をあげにくくさせたり、集団行動が仲々とれにくくなり社会性を乏しくさせたりするが、K子もその通りであり、入学以来ずっとこの課題はK子の指導の重点として取り組まれてきた。

本年度も引き続きこの課題について、「好きな遊び・造形的取り組みを中心にしながら担任や友達と楽しく学習していく中で、少しずつ集中力・持続力を育てる」という目標を立てて取り組んできた。その中で、特に教材・教具や指示・援助をどのようにしたら効果的かを事例を通して考えてみたい。

2 対象児について

- CA 9:2 (S59.12月) • 點頭てんかん(一日一回位の発作あり、服薬中)
- 家族関係 厳しい祖父母と甘い両親とで偏りがある
- K式発達検査(S59.5.28実施 鳥取大学教育学部 渡辺昭男先生による)

領域別	得点	発達年齢	発達指数
姿勢・運動 P-M	89	2:11	34
認知・適応 C-A	199 (推定)	2:3	26
言語・社会 L-S	69 (推定)	2:3	26
三領域合計		(P-M)+(C-A)+(L-S)	
全領域	359 (推定)	2:3	26

點頭てんかんによると思われる停滞状況がみられる。抗てんかん剤の調整 — 日課づくり — 生活リズムの確立の中で、発作を抑える取り組みが必要。

I 姿勢 — 運動

調子の良い日を逃さずに意欲を育てることと統合した身体の取り組みが大切。

II 認知 — 適応、

III 言語 — 社会

高く読みとれやすいが、日常生活の中でできていることでも定着していないものが多いのではないかと。(リズム表現の中の大小) そして、前教科的な学習(物の名称・数量・2次元世界等)に力を入れることのできる段階である。

3 指導の重点

- 1、2年時の指導内容と観察及びK式発達検査と渡辺先生の助言を参考に指導の重点を次のように

設定した。

- (1) 好きなこと、自分から進んですること、興味関心を持つものを生かして楽しく集中、持続できるように工夫する。(生活単元学習、音楽、体育、朝・帰りの会)
- (2) 1対1の取り組みを入れ、刺激の少ない環境で集中して取り組む態度を養う。(個別学習)
- (3) 給食当番、掃除、係の仕事など毎日くり返し、徐々に持続力を養う。(日常生活の指導)
- (4) 励まし、賞賛の言葉をかけて安心感を満たし、やる気を盛り上げ、自分から進んで取り組むように働きかける。(生活全般、衣服の着脱)
- (5) できるだけ同じパターンをくり返して生活のリズムを身につけさせ、少しでも見通しを持って行動できるようにする。(生活全般)

4 たなばたまつりの実践(生活単元学習の取り組み)

(1) 単元設定の理由と概要

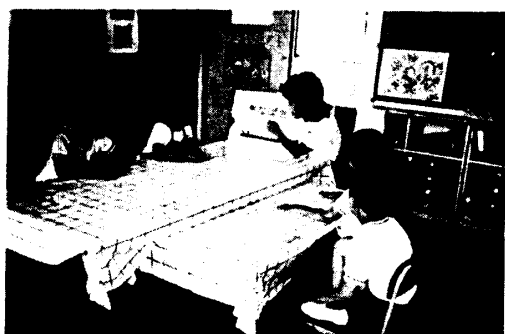
この単元は、笹かざり作りとお母さんを招待して一学期の成果を見てもらふ発表会が中心になった学習で、造形的な活動、音楽リズム等の多く含まれる単元である。

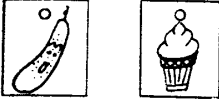

ぬりえ、文字なぞりなどは毎日自分からやるぐらい好きで、歌・おどりを得意とし、きれいなもの・かわいいものに興味関心が強く、お母さんが好きなK子にとって、この単元は集中力・持続力を育てるには適した単元である。

指導に当たっては、教材・教具、指示・援助の工夫をするとともに、同じパターンの展開で学習をくり返し、見通しを持って取り組めるように組み立てを工夫していきたいと考える。

(2) 一学習例とK子の様子(6月27日)

学習の流れ	K子への手立て	K子の様子と考察
1 「きらきら星」「たなばたさま」を歌う。	1 教室中をウロウロと歩いていて自分から歌おうとしなかったので、手を引いて連れて行き、後ろから手を持って動かした。	1 1フレーズだけ手を持って動かすと、後は一人で最後まできちんと「きらきら星」を歌った。 (くほんの少しの援助だったが、きっかけがつかめたようだった。)
2 「たなばた」の紙芝居を見る。	2 席を離れて勝手なことをしてしたが、紙芝居が始まったところで、だっこして一緒に見た。	2 だっこされると不思議なくらいじっとして落ち着いた。 だっこされるのとほとんど同時に紙芝居に集中した。じっと見入るような集中の仕方だった。 (く別の日、紙芝居が始まると身をのり出して見たり、紙芝居ににじり寄り見たりするなど、K子は紙芝居にかなり集中できると言えると思われる。日によってだっこされるなどの援助も要るが、いつの場合も目はじっと紙芝居を見ていた。) (く紙芝居に限らず、テレビはだっこしても集中できないのに、絵本の読みきかせは集中でき、絵本もK子を集中させる手立ての一つと考えられた。)

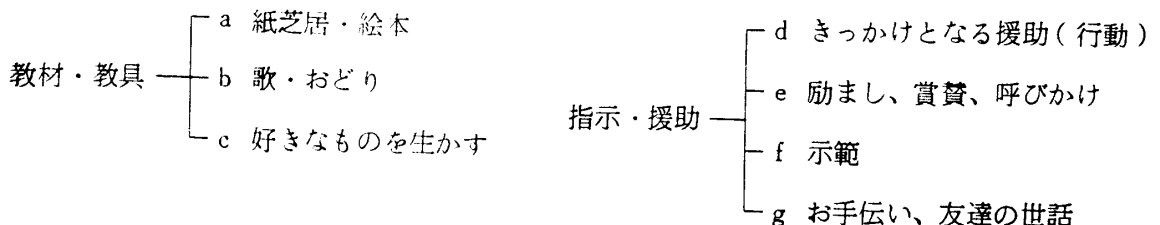


<p>3 たんざく作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のたんざくを見る。 ・好きな絵を選ぶ。 ・カラーセットでぬる。 ・飾りつける。 	<p>3 K子の好きな食べ物 の絵をたんざくにかいてお いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きゅうりをぬろうか」と 声かけをし、できたら手 を叩くなど大きな表現で 誉めた。 	<p>3 たんざくを見るとすぐ側に行 ってもらい受け、友達に配 った。続いてカラーセットも 配って、ぬる意欲を見せた。</p> <p>〈好物のきゅうり、アイスク リームなどの絵が、K子 を引きつけ、ぬる意欲を高 めたと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いかけに対し「ウン」と 答えたり、「きゅうり」と 言ったりして続けて5枚ぬ った。 <p>〈ほめられることによって更 に調子がつき、意欲が高ま ったことを感じた。〉</p>
<p>4 クラス発表の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かもめの水兵さん」 ・「雨ふり」・「グッドバイ」 ・「めだかの兄弟」 	<p>4 K子の前で示範をして 模倣しやすくした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中、休んだら名前を 呼んで意識づけた。 	<p>4 先生の振りを見ながら、大 きな声で歌った。「かも めの水兵さん」の敬礼ポーズ が特にうまかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雨ふり」「グッドバイ」 などのカスタネット奏も 歌いながらよくがんばった。 ・時折歌詞がわからなくな ったりして休んでしまうこ とがあったが、名前を呼 び、目を合わせると再びや り始めた。 <p>〈大きな身振りで示範をし たり、目を合わせたり、声 かけしたりすることは大切 であると思った。〉</p> <p>〈途中で休んでしまう持続 力のないところについては 医学面と関係しているのか 、わがままからなのか、教 師の態度(他の子を援助す ることに妬いているとも考 えられる)のためなのか、 今後の課題として追究して いきたいと思う。〉</p>
<p>5 七夕発表会の紙芝居を 見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笹かざり ・発表 ・お母さん ・すいか 	<p>5 自分や友達、お母さん を見つけさせ、紙芝居に 一体感を持たせて引きつ けるようにした。</p>	<p>5 自分や友達を指さして名 前を呼んだ。</p> <p>〈自分達がかいてあるので 、紙芝居に親しみをもち、 一層集中できたように思 った。〉</p>

(3) 実践例の考察

上記の学習より、K子が集中・持続したと思われるのは、紙芝居を見る時、歌・おどりの時、好きなもののかいてあるたんざくを見た時、また、それをぬる時であった。そして、集中・持続するのに効果的だったと思われる指示・援助は、だっこする・手を持って動かすなどの行動、励まし・賞賛・名前を呼ぶなどの声かけ、示範であった。更に、進んで取り組んだたんざく・カラーセット配りというお手伝い・友達の世話は、学習に取り組むためのきっかけや意欲づけとなって、K子が集中持続するために効果的と思われた。

これらをまとめると次のようである。



以後、d～gのことに心がけて、a～cを生かした学習を組み立てて「水遊び宿泊」「運動会」「すいはん遠足」「いもほり」「学習発表会」「クリスマス会」の実践を行った。

その中で、教材・教具に関する有効性を示す事例をa.b.cに沿ってあげてみると、次のようなことがあった。

- a ㊦ 宿泊のしおりを自分から出して、持ち物や友達の名前を読んだり、クレパスでぬったりして親しんだ。
- ㊧ すいはん遠足の紙芝居に合わせて歌を歌ったり、友達を探したりして積極的に学習に参加した。
- ㊨ 「3匹の子ぶた」の紙芝居を机から身をのり出して見た。れんがの家を吹き飛ばすのをあきらめる所まで集中。
- ㊩ 「さるとかに」の絵本を見じろぎもせずに最後まで見た。先生の問いかけに「さる」「かに」と答えられた。
- b ㊦ 入浴時、「手を洗いませよシュッシュュシュ〜」と歌いながら、歌に合わせて一人で身体中をスポンジでこすった。
- ㊧ 「桃太郎」を歌いながら旗ぬりをしたが、歌っている間ずっと作業が持続し、12コぬった。
- ㊨ 「くいしん坊のKちゃんがにんじんを見つけた〜」の歌に合わせて、箱からにんじんを取り出せた。
- ㊩ 劇練習中、「すずめの兄弟」のおどりになると自分からおどり始め、1、2番ずっとおどりウロウロしなかった。
- c ㊦ すいはん遠足でのカレー作りにおいて、材料がなくなるまでにんじんの皮むき、きざみに取り組めた。
- ㊧ 学習発表会の作品づくりで、すずめのぬりえを小さく区切ってぬらせると、余白なく一羽をぬり込めた。
- ㊨ 「さるとかに」の登場人物の絵と文字のマッチングを好み、「もう一回しよう」と何度も要求した。
- ㊩ わつなぎで、のりづけ場所に1、2、3…と番号をつけたら、増えていくのを喜び、先生と15コつないだ。

紙芝居のみでなく、スライドや劇まで内容や形態も幅が広まり、これらをきっかけとして学習に集中したり、興味を持続させたりした。歌でも、活動を調子づけたり、行動を促したりする指示・援助の働きもうかがえた。また、調理に関することによく集中し、文字、数字に興味を強く示し、教具、指示、援助に生かすと効果的であることがわかった。

5 今後の課題

以上、K子が集中できるいくつかの要素を見つけ出し、それをきっかけにしたり、満足させたりすることを大切に、くり返ししながら実践して、これらのことが集中力、持続力を育てるのに大切であ

るということがわかった。そのことは初めは1対1でついていなければならなかった給食当番が、一つ配る毎に大きな身振りで手を叩いてほめたり、確認したりすることのくり返しのうちに、一人で最後まで配ることが多くなった事実からもうかがえる。

日によってむらがあったり、前回は効果的だったことが次回は効果をあげなかったこともしばしばあったが、長い経過からみると、アプローチしてきた方法に関しては、ある程度効果があり、今後もK子の興味をすく見つけながら実践していきたい。

しかし、K子は一日一回位のとんかん発作という医療面での大きな問題をかかえており、この面からのアプローチが重要な課題となっている。今迄も、月一回主治医とは連携を持ちながらやってきたが、更に医学的な手だてについて探っていくことが重要であると考ええる。

また、周りのことが気になり、少しの刺激にも気が散り、気分の変わりやすいK子に対し、特に作業場面では1対1の取り組みを重視し、できるだけ友達と離れた場所や別室での扱いを試みた結果、このことも集中に関してはかなり効果的だった。しかし、生活単元学習の中での1対1の取り組み、特設の個別学習と生活単元学習との関り、友達関係等、今後の課題として更に検討していかなければならないと考える。